

(別紙様式) 令和4年度 1人1台端末の活用による実践事例

学 校 名		岡山県立倉敷古城池高等学校		
実践者等		福永 佳重	実践日	令和 4 年度
実践場面		芸術Ⅰ・美術Ⅰ（A 表現、B 鑑賞）		
対象生徒（学年等）		普通科 1 年次		
育成を目指す資質・能力		■知識・技能 ■思考力・判断力・表現力等 ■学びに向かう力・人間性等		
分類	授 業 中	□クラウドやアプリの活用 □デジタルデータの保存 □思考やデータの可視化		
		□データの共有や共同編集 ■対話を充実させる活用 ■思考を促す活用		
		■表現を充実させる活用 ■課題のやり取りと評価の支援 ■効率化や省力化		
	家庭学習	■振り返り □探究 □反転学習 □補習・定着		

実践の内容

〈担当教員の取組〉

1 これまで使用していた紙のワークシートやプリントを、Google スライドや電子付箋に置換
 題材名：『古城池散歩～「美しい」を探そう(映像メディア表現)』(B鑑賞)〈令和4年5月〉学びに向かう力
 Chromebook カメラで撮影→ワークシートスライドに画像とテキスト入力→課題提出

美的探検 古城池散歩



ここが「いい」「美しい」いいと思ったところ、根拠

美的探検 古城池散歩

ここが「いい」「美しい」いいと思ったところ

美的探検 古城池散歩



ここが「いい」「美しい」いいと思ったところ、根拠

美的探検 古城池散歩



ここが「いい」「美しい」いいと思ったところ

題材名：『油彩画に挑戦①ショパンの手を表そう～音楽の印象をもとに』(B鑑賞)〈令和4年10月〉学びに向かう力
 制作終了→google スライドの作品名票フォームにテキスト入力→キャプションとして作品の相互鑑賞



題材名：『雪舟考～鑑賞 秋冬山水図(雪舟筆)』(B鑑賞)〈令和5年1月頃実施予定〉思考・判断
 一斉学習で作品提示、対話型鑑賞→個別に意見を付箋に記入→意見を共有、統合→鑑賞文を書く

何が描かれてあるか



何が描かれてあるか



寺城



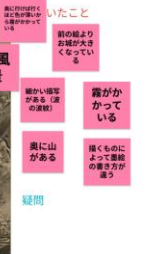
寺城



何が描かれてあるか



何が描かれてあるか



利点：鮮明な作品資料画像が例示できる・課題投稿～提出までデータのやり取りを Classroom の中で

2 表現の題材探し、制作の補助として活用

題材名：『油彩画に挑戦②～風景散歩』(絵画)〈A表現〉〈令和4年10月～〉思考・判断 学びに向かう力
 画題探しと構図の検討に活用 雨天時の制作の記録



利点

生徒自身の手元で行える・撮影画像とその場で自分の目や肌で感じとる「風景」との相違点に留意し、風景表現のスケール代わりで、制作に自信のない生徒への指導、助言の手立てにできる。

3 ふりかえり、まとめ、発表

まとめ：ポートフォリオ作成 自己評価 〈令和5年2月頃（予定）〉 学びに向かう力

学期、学年末の振返として、授業作品、クロッキー帳、ワークシートの画像をスライドに添付しまとめる
年度初めから年度末までアイデアスケッチや制作過程の記録収集、学びの成長を授業前後でふりかえる。



クロッキー どれくらい上達したか



〈初期のクロッキー〉



〈一番良くできたクロッキー〉

題材名

『用の美を兼ね備えたバターナイフを製作』（デザイン）〈A表現〉思考・判断 〈令和5年2月頃予定）

製作後→作品撮影→google スライドでプレゼンテーションを作成→課題提出→発表



利点・紙、ワークシート、クロッキー帳等をデータでまとめたことで、評価資料が充実した。

・発表の授業時に出席停止の生徒が自宅から授業に参加できた。

《感想》

これまでできることから授業に端末を用いてきたが、省力化と生徒の学習への意欲が増しているのを実感する。美術で大切にしたい、実物を捉え対象を見る、ふれる等の身体感覚を働かせた活動から、造形的なものの見方・考え方と発想・構想、表現ができるよう内容精査していきたい。

今後は、さらに生徒の思考が深まる活用方法や、端末での「映像メディア表現」等の表現活動の充実、鑑賞活動の充実、国内外美術館 web ページからの情報収集からの学習、外部講師のリモート授業等の連携も模索したい。